

平成21年度 日本公認審判養成講座ルールテスト

平成21年6月14日(日)

京都バスケットボール協会審判部

(1) 次の各空欄1～3に入る適切な用語を回答欄に記入しなさい。

2009～バスケットボール競技(1) まえがき

本(1)の願いは、この競技が、人間の体力や気力および人間らしい心を最高度に発揮して行われることである。そのために、日本バスケットボール協会は、有用な字句・条項の修正にはつねに心をくだしている。しかし、この(1)の精神を実際のゲームに発揮する段になると、それは我々の力のおよぶところではない。この精神をあますことなく発揮するには、(2)と審判と観衆と(3)との四方向からの努力がぜひとも必要である。

(2)は、(1)の精神の実行者である。審判は、(1)を堅持して(2)の足りないところを補いつつ、これに健全な方向を与えるとともに、そのゲームを公正にかつ円滑に運営することによって、すべての人に信頼されなければならない。そのためには、(1)を文字どおりに読みとり、その(1)に照らしながらそれぞれの判断をくだすことをくり返しくり返しつづけることによって、ついにはそれを感覚的にも誤りなく瞬時に判断できるようになることが必要である。観衆は、(1)のよき理解者としてよいプレイに賞賛を送り、よい(2)を勇気づけるのが役目である。そしてチームの(3)は、ゲームの際の審判の役目を日常の練習の間に行って(2)を導くのであるから、誠心誠意の努力をして規則の精神を自分のものとして身につけていなければならない。

(2)は、(1)の精神の実行者として深い自覚をもって、これらの周囲の援助と期待にそむかぬプレイを体得するための精進をつづけることが大切である。それがまたこの競技をもっともよく楽しむこととなるはずである。

しかしながら、実際のゲームの現場で、何が(1)の精神と合致するのか何が公正であるのかなど、あらゆる具体的な問題に直面したとき何によって公正と不公正とを区別すべきかということになると、いかに我々が円満な常識と強い意志をもちつづけていたとしても、ただちに明らかになるとはいえない。ここにこそこの(1)の存在意義がある。

それは一言一句も軽視することのない、文字通り(1)の章条に忠実であろうと努めることによってのみ理解される。審判は、瞬間的なプレイに対して正しい(1)の適用を要求されている。また、近年、バスケットボールの競技(1)が改正されるごとに、ますます審判の判断に基づいて判定することが競技(1)により明確に要求されるようになってきている。したがって、審判が(1)を把握するには、単に(1)をよく読み(1)を覚えるということだけではなく、体験的に理解を深める必要がある。もちろん(1)は文字を借りて表された意思であるから、行間にその意思をくみ取らなくてはならない。そのうえで自分流の解釈を施すことなく、白紙の心境で字句そのままの意義を受け入れる態度を持続けることによって、はじめて行間の(1)の精神を誤りなく身につけることができるのである。

日本バスケットボール協会は、(2)、審判および(3)が(1)の章条を文字どおりに受け取ってさしつかえないように、細心の注意をはらって工夫を重ねつつある。しかし、なお疑義の生ずるところもあるであろう。その際にはただちに問い合わせていただきたい。(1)をより完全なものにするためにも、また勝手な解釈を施していたずらに混乱を招くことを避けるためにもさらにバスケットボール界の正しい発展のためにも、(2)、審判および(3)の皆さんの積極的な協力を期待するものである。

(2) 次の各問に正しいと思うものには「Right」に○印を、間違いと思うものには「Wrong」に○印を回答欄につけなさい。

- 4 スコアシートに示されたキャプテンがコートから退く場合、コーチがコート上でキャプテンの役目をするプレイヤーの番号を審判に伝えた。
- 5 A 4 がショットしたボールがリングにはさまってしまい、ジャンプ・ボール・シチュエーションになった。ポゼッション・アローはチーム A を示していたので、引き続きオルタネイティング・ポゼッション・ルールによるチーム A のスロー・インで再開される場合、24 秒計をリセットしてから再開する。
- 6 B 3 が 5 回目のファウルであることを宣せられてコートから退いた後に再び交代してゲームに出場した。審判は B チームのコーチにテクニカルファウルを宣し、A チームに 2 個のフリースローを与え、さらに T O 席から遠いほうのセンターラインのアウトからスロー・インさせてゲームを再開させた。
- 7 ボールをコントロールしているプレイヤー（ボールを持っているかドリブルをしているプレイヤー）を防御するときは、防御側プレイヤーは相手の速さと距離にとらわれずに防御の位置を占めることができる。
- 8 ゲーム中にはコーチまたは、アシスタント・コーチどちらか一人だけが立ちつづけてもよい。
- 9 A 4 のフリースローの 2 投目にボールがシューターの手から離れる前に B 3 が制限区域内に入ったが、そのシュートが成功したので、審判はヴァイオレーションがなかったものとしてゲームを続行させた。
- 10 ボールが下からバスケットに入り、完全に通過したときはジャンプ・ボール・シチュエーションとなり、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによってスロー・インでゲームを再開する。

回答欄

氏名

問 1		問 6	Right · Wrong
問 2		問 7	Right · Wrong
問 3		問 8	Right · Wrong
問 4	Right · Wrong	問 9	Right · Wrong
問 5	Right · Wrong	問 10	Right · Wrong
合計 (Total Score)			